

令和3年9月30日

教育長答弁実録

（教育委員会）

（問）国際感覚を持った人材の育成について

高校生のうちに、海外で生活し異文化と触れ合うことは、一生に一度しかない貴重な経験である。コロナ禍で海外と直接触れ合うことが困難な状況において、幅広い国際感覚を身に付け、世界を視野に入れて活躍する高い意欲と志を持った人材の育成を図るために、どのような取組を行っているのか、教育長に伺う。

（答）

これからの社会で活躍するためのベースとなる生徒のグローバル・マインドや、実践的なコミュニケーション能力を育むため、これまで全ての県立学校で海外の学校と姉妹校提携を結ぶなど、国際交流の活性化を図ってきたところでございます。

現在、新型コロナウイルスのまん延により、海外への渡航や海外からの留学生の受入れが困難であります。県立学校のうち約6割の学校では、オンラインにより、

- ・ 海外姉妹校の生徒と互いの文化や生活について、意見交換を行ったり、
- ・ 県内大学の留学生と茶会や箏曲披露、平和学習の発表等を実施したりする

など、日本にいながらも異文化に触れられるよう、取り組んでいるところでございます。

さらには、文部科学省WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業におきまして、「平和」をテーマとした国際会議を7月にオンラインにより開催したところでございます。

この会議の企画・運営や研究発表、協賛企業への募集、WEBサイトの開設などに高校生が中心となって取り組み、「平和」について海外の高校生とともに考えを共有したり、発信したりすることにより、グローバルな視野と強い使命感を持って持続可能な社会の構築や国際社会の平和と発展に貢献する人材の育成を図っております。

また、スタンフォード大学と連携して、広島県の高校生のための遠隔講座を開設したり、平和教育や多様性などの講義や、ディスカッション、プレゼンテーション等を通じて、幅広い国際感覚を身に付け、世界を視野に入れて

活躍する高い志を持った人材の育成を図っております。

県教育委員会といたしましては、コロナ禍にあっても、引き続き、こうした取組を進めていきたいと考えております。